

「江別市子どもが主役のまち宣言(案)」に対する 意見公募(パブリックコメント)の結果について

(意見募集期間:令和6年9月10日から令和6年10月10日)

令和6年10月

江別市 子ども家庭部 子育て支援課

意見公募(パブリックコメント)の結果概要

■意見の募集結果

募集期間	令和6年9月10日から令和6年10月10日
提出者数	10人
提出件数	10件

■意見の区分

区 分	件数
宣言(案)に関するご意見	3
宣言(案)に関するご感想や賛成意見	4
その他子ども施策に関するご意見	3
合 計	10

■寄せられたご意見と市の考え方

(ご意見につきましては、可能な限り原文のとおりとし、受付順に掲載しております。)

1 宣言(案)に関するご意見

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方
1	子供が笑顔で健やかに育つ環境が強く望まれる事に賛同しない市民は居りません。しかしながら、主役を子供にして、高齢者などをスミに置くような印象を受けます。市の主役は永久に市民であり、子育てを支える人々が主役であるはずです。核家族の弊害の中にあって、祖父母が如何に健康寿命を延ばして安定した生活をしなから、市の財政負担を増やすことなく、若者の嫁、婿や孫の要らん世話をやき、その結果として子供を産み育てる為の支援をすることが公的支援の外周で必要と考えます。 公民館の多目的ホールを一例としますが、長年シミとホコリにまみれ、適度な滑りもない絨毯のフロアが他都市のダンス愛好者からも嫌われ、健康寿命延伸の大切な手段を制約するなど、困り果てている市民もいるのです。 今後ともメリハリのある施策を望みます。 「市民の総力をもって子育てに邁進する街」あたりが良いと思います。	宣言文(案)は、大人たちが、子どもの幸せを第一に考えていくということを示すとともに、大人だけに限らず、子どもたちにとっても、宣言文から子ども自身が権利をもつ主体であるという趣旨が伝わる内容にしたいと考え、表題を「江別市子どもが主役のまち宣言(案)」としたものです。 ご意見を踏まえ、高齢者等がわき役であるとの解釈につながらないように、次のように解説文に追記します。 <文の追記> 「この「子どもが主役」とは、誰かが主役、誰かがわき役という意味ではありません。 子どもが、大人から守られるだけの存在でなく、子ども自身が権利をもつ主体であるという考えを大切にするために、「子どもが主役」という言葉を使っています。」

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方
2	発表された「江別市子どもが主役のまち宣言」(案)について、率直に感じた点を述べさせていただきます。 まず、この宣言の内容を拝見して、確かに大切なことが書かれているとは思いますが。しかし、その内容にどこか懐かしさを感じずにはいられません。実際、この宣言は10年前、20年前に書かれていても何の違和感もないものです。時代が急速に変わりつつある2024年において、果たしてこの内容が現代の子どもたちを取り巻く課題に本当に対応しているのか、疑問が残ります。 子どもたちを取り巻く環境は今や急激に変化しており、特にデジタル技術の発展は避けて通れません。インターネットの普及により、子どもたちは膨大な情報に日々アクセスしています。しかし、その情報の多くは個々の趣味や行動に基づいてパーソナライズされており、偏った情報ばかりを受け取る可能性が高まっています。これは大人にとっても同様のリスクを伴うものであり、情報の精査が求められる時代です。それに関わらず、今回の宣言にはデジタルリテラシーに関する言及が一切ありません。市としては、「変わらない」ことこそが最も大切な価値観なのかもしれませんが、それで本当に子どもたちの未来を守れるのでしょうか。 さらに、AI(人工知能)の進展も無視できない課題です。これからの世代はAIと共に生活し、学び、仕事をしていくことが不可避であり、AIの助言や指示をただ受け入れるだけではなく、AIを使いこなす力が求められます。AIは強力なツールですが、その限界や誤りを理解し、批判的な視点で活用する能力を養わなければ、私たちの社会に真の意味で役立てることは難しいでしょう。しかし、現時点でのこの宣言には、AIに対する視点や教育がまったく含まれていません。おそらく市は「AIなど存在しなかった頃の良き時代」の価値観を大切にしたいのかもしれませんが、現実的には、私たちがそのようなノスタルジーに浸っている時間はあまり残されていないのではないのでしょうか。 さらに、今後の子どもたちには、創造性や独自の思考を持ち続けることが求められます。AIが得意とするのはデータ分析や自動化ですが、人間にはまだまだ創造力や柔軟な思考があります。未来の子どもたちが、ただAIに頼るのではなく、自分たちの考えやアイデアを駆使して新たな価値を生み出せるような教育の支援が必要ではないのでしょうか。とはいえ、この宣言にはそのような創造的な未来へのビジョンは特に感じられません。どうやら、市としては「いつものやり方」が最も安心で確実だと考えているのでしょうか。 2024年という時代にふさわしい、そして急速に変化する社会において未来を担う子どもたちが直面する現実即ち支援策が、今後検討されることを強く願っています。子どもたちが、ただ時代に流されるのではなく、未来をリードできるような教育やサポートを江別市が率先して行うことを期待しています。	ご意見のとおり、子どもの育ちや教育において、デジタル技術への対応は重要な事項であると認識しており、令和6年4月にスタートした「第3期江別市学校教育基本計画」では、基本施策「情報活用能力の育成」に基づき、情報や情報手段を主体的に選択し、活用するために必要な情報活用能力を系統的に育成することとしております。

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方
3	一、「宣言」(案)が実行力を持ち、画餅に終わらないために「子どもの権利条例」づくりの方向を明記したほうがよい。 政府は、「こども基本法」を成立させたのは、国連・子どもの権利委員会から是正の強い勧告を受け、憲法の本質や子どもの権利条約にのっとり作成したとしています。道は、「北海道こども基本条例」を検討しています。 その流れで、地方自治体の責務として「子どもの権利条例」づくりを視野に入れた「宣言」(案)の提案と考えます。 <宣言の解説>でも子どもの権利条約を踏まえた旨を記載しています。 一、「子どもの権利条約」には何が書かれているのか、その基本的な考え方を知ることが大切です。 ・四つの柱「生きる権利(生存)」、「育つ権利(発達)」、「守られる権利(保護)」、「参加する権利(参加)」を中心に、 ・一般原則「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命への権利、生存・発達の確保」「子どもの意見の尊重」 ・その他「親による虐待・放任、搾取からの保護」、「社会保障への権利」「生活水準への権利」、「休息、余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加」等々を学習するには、子どもと直接かかわる親、教師だけでなく、一般社会人にも組織的な対応が必要となります。 行政のはたす役割は大きいと考えます。 一、大人と子どものかわり方はどうするか 子どもは大人の保護、援助なしには、みずからの権利を守ることができません。子どもは発達とともに、その内容が変化し充実していきます。子どもは、大人の社会的・歴史的あり様の反映といわれます。今を生きる点では、大人と子どもは同じ社会をつくっています。 「一人ひとり違っていい」という多様化や個別化がいわれる昨今ですが、子どもたちの生活実態には本当に厳しいものがあります。 現状の矛盾を背負って生きています。 能力主義の「できる」競争で評価され、選別体制の中でもがき苦しむ子どもたち。行動規範で画一性と同一価値の同化を求められ、自分の居場所を見失っている子どもたち。 学習や生きている意味がわからず、学びからの逃避、不登校、自死の増加が社会問題として報道されている。 「子どもは幸せであるべき存在」です。 諸外国にくらべて日本の子どもは「幸福感」や「自己肯定感」が低いといわれています。 子どもの全面的な発達が子どもの将来を含めて課題化され、地域社会全体で、応援でなく子どもたちと共に、一歩ずつ前進することを期待します。	宣言については、理念的なものと考えております。 「子どもの権利条例」を含め、この宣言を具現化するための施策については、現在策定中の、次期子ども・子育て支援事業計画の中で検討してまいります。

2 宣言(案)に関するご感想や賛成意見

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方
4	子どもの権利条約を日本が批准してから今年で30年になりますが、子どもを取り巻く状況は深刻化していると感じています。 日々のニュースをみても児童虐待、いじめ、不登校、子育て環境の格差など胸が痛みます。 一人ひとりをどう大切に育てていくか、親も含んだ大人の役割です。 子ども施策の実施権限のほとんどが市町村の長へ委ねられていることを鑑み、江別市でも「子どもの権利条例」を定めるべきと考えます。 首長が代われれば施策も変わるのではなく「条例」によって、乳幼児期から児童期、思春期へ切れ目のない支援が継続的、安定的に実施できると思うからです。 是非よろしく御検討下さい。 今回の宣言(案)は、子どもに対する「幸せだと思うときは？」の回答も文言に盛り込み、やさしい言葉と文章でまとめられていると思いました。	今後も、宣言の解説をより分かりやすくした広報資料などにより、この宣言の周知に努めていくとともに、宣言に関する取組を進めてまいります。
5	日本の子どもは、自己肯定感が低いと以前から言われており、私自身もそう感じています。 子どもたちはやがて大人になり、これからの社会を担っていく存在です。 子どもは決して1人で成長していく訳ではなく、親、まわりの大人のサポートが必要です。 個々の家庭だけでは、子どもの成長を見守るのは難しく、子どもたちが自らの育つ力を十分に発揮できるように、子どもそれぞれの人格や個性を大切にし、また子どもたちの意見にも耳を傾け、その意見を反映することが出来れば、自分に自信が持てたり自己肯定感も高くなると思います。 今回の宣言(案)は、分かりやすい文章でまとめられていると思いました。	

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方
6	「子どもの権利条約」について、4つの柱を知ったのが2年前。いじめや不登校のニュース等から情報を得ました。江別市でも条例を定め、未来を担う子どもたちが「安心して遊ぶ、食べる、ゆっくり眠るなど色々な幸せ」をいつも感じてもらえる社会であって欲しいです。 障がいがあってもなくても、大切にされる社会であって欲しいです。子育てにかかわる支援者にも補助金などで活動しやすい江別であって欲しいです。今回の宣言(案)は、とてもわかりやすく、実施されるとみんなが幸せになれることが伝わります。	今後も、宣言の解説をより分かりやすくした広報資料などにより、この宣言の周知に努めていくとともに、宣言に関する取組を進めてまいります。
7	江別市子どもが主役のまち宣言(案)を読んで、大変素晴らしい内容だと感動しました。 子どもの権利条約の中の4つの柱が表現されており、大人として気が引き締まる内容だと感じています。 様々な自治体で子どもの権利条例など策定されており、その内容や取り組みをみると、宣言のみで、具体的な取り組みがともなっていない市町村もあります。 私たちは、江別市内で、子どもを直接支える活動を行っており、悲しい思いをしている子どもや、残念な大人の対応を日々目の当たりにすることも沢山あり、だからこそこの宣言に寄せる期待は大きいです。 この、子どもが主役のまち宣言が、一人ひとりの江別の子どもたちにどのように届くのか、市としてどのように具体化していくのかが大切だと思います。 この宣言が実行力のある魅力的なものになるために、行政側の制度の策定だけではなく、市民による子ども理解との両輪が必要と考えます。 是非市民参画で進めてほしいと思います。 子どもたちの最善のために、沢山の大人や子どもたちが関わっていく江別であってほしいです。 江別市の宣言に係る取組に大いに期待しています。	

3 その他子ども施策に関するご意見

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方
8	3年前に米国から江別市へ本帰国した者です。3人の子供を米国で育てた自身の経験から、江別市の子育て支援に関して、大きく米国から立ち遅れていて気になった点を、2つ程、報告させていただきます。 ①公園の安全性配慮の不足 米国の場合、滑り台やブランコといった遊具から子供が落下することを想定して、地面にバーク(木を細かく裁断した破片)やクッション材(タイヤの廃材破片)を敷き詰める事で、怪我の防止が図られています。 一方、江別市内の公園は、土の地面がむき出しの場合が多く、危険な状態が放置されたままになっています。遊具自体も錆びたり古いものが多く子供達の安全が守られていない感を覚えます。 ②学生への学習スペースの提供不足 江別市の場合、道立を含めた公立の図書館が4箇所しか無く、中高生が家庭外で勉強をしたくても、自転車や徒歩で行くには遠すぎて利便性に欠けています。 そればかりか、図書館内で勉強が許される場所が限定されていて、勉強スペースの絶対数が不足しています。一方で米国の場合は、十分な図書館の数が有り、学生が容易に通えるだけでなく、館内の何処の場所でも勉強をする事が許されています。 江別市に於いて図書館の数を増やすといった対策は容易では無いと思いますが、①せめて、学習スペースを図書館内の全域で許可をするとか、②公民館や集会所等、町に既に有る公共施設を学習スペースとして開放するとか、③或いは、民間の業者(本屋やレストラン)と提携して学習スペースを確保する、といった対策であれば、予算的にも講じ易いのではないかと思います。 江別市は、折角4つもの大学を誘致するなど「文教のまち」を掲げていますが、実際には、市内の学生の大学進学率が、北海道内の他の市町村と比較して低いとされています。 「文教のまち」「子どもが主役のまち」を掲げる市政の方針に一貫性を持たせる上でも、上述の対策を執るなどで、学業を志す学生に対する学習支援の環境を早急に整備して頂ければと思います。	子どもに関する具体的な施策については、現在策定中の、次期子ども・子育て支援事業計画や、その他子どもに関連する市の個別計画を検討する際の参考とさせていただきます。
9	人口統計では、少子化の影響で年々子どもの数が減っていく中、江別市も子どもの減少は看過できない問題です。 ただ江別市は他の自治体から学園都市と呼ばれることがあります。 大学が多いからです。 ぜひ保育園・幼稚園といった人が学び始める時期から大学までを地元江別市で過ごしてくれる子どもが増えることを願うばかりです。 親としても地元の学校に通ってもらったほうが家計的に助かるはずです。	

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方
10	こんにちは。 後藤市長になられてから様々な活発な市政をありがとうございます。 江別市を子どもや子育て世代にとって魅力的で暮らしやすいまちにするための提案をさせていただきます。 ◎幼いうちにたくさん遊んで欲しいという願いから次の施設整備を希望します。 ・幼児期、学童期それぞれに適応したコースのある自転車公園 ・競技用コース、ウォータースライダー等の遊具が共にある市民プール（紋別市や千歳市にある） ◎子育て世帯や一般世帯にとって家計を優しくし可燃ごみを減量させるために、プラスチックごみを可燃ごみからプラ資源回収に変えてほしい。 以上です。 よろしくお願いいたします。	子どもに関する具体的な施策については、現在策定中の、次期子ども・子育て支援事業計画や、その他子どもに関連する市の個別計画を検討する際の参考とさせていただきます。